

株式会社免疫生物研究所

JASDAQグロース 証券コード:4570



代表取締役社長 清藤 勉

平成27年5月29日（金）

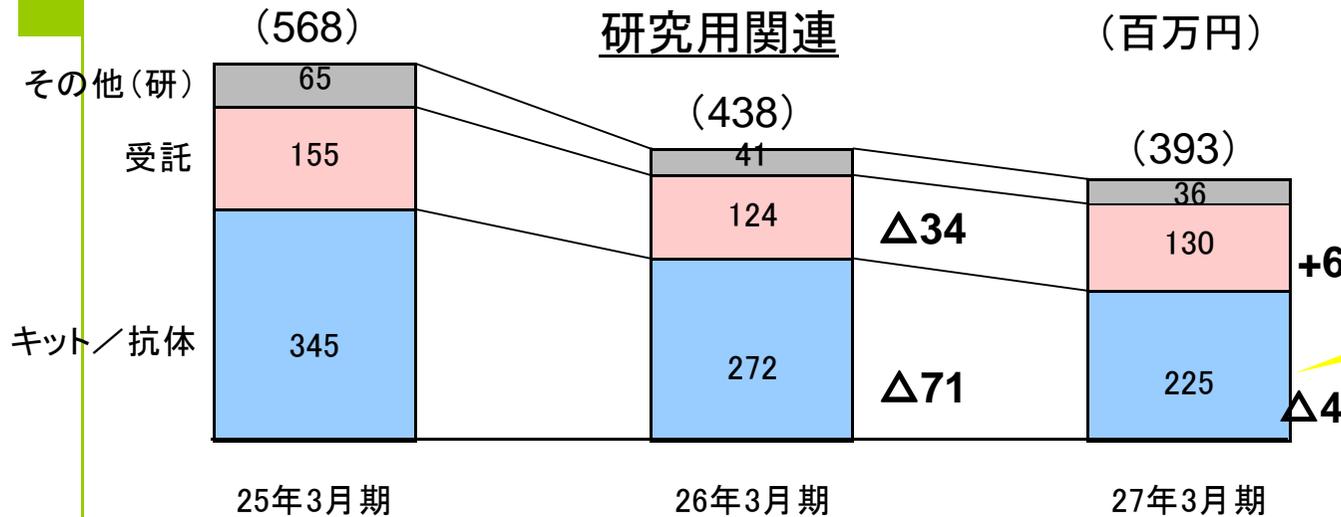
- 平成27年3月期（第33期）決算報告（連結）
- 平成28年3月期（第34期）業績予想および
（新）中期経営計画【連結】

■ 平成27年3月期（第33期）

決算報告（連結）

- 平成28年3月期（第34期）業績予想および
（新）中期経営計画【連結】

診断・試薬事業 売上高推移

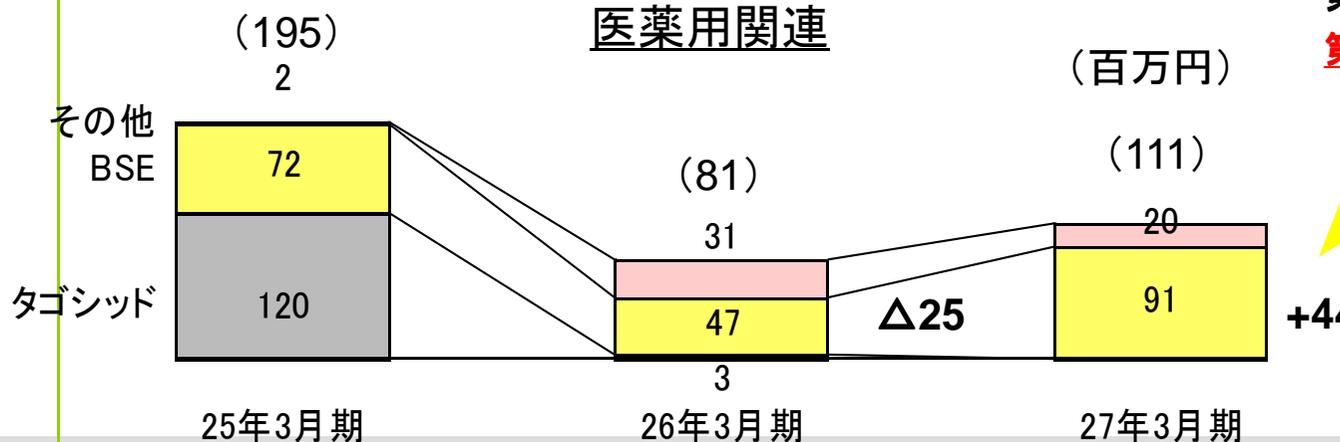


主力製品の
売上減少

平成27年1月(4Q)より
非独占契約に変更

第1Q売上高 72百万円
第2Q売上高 99百万円
第3Q売上高 91百万円
第4Q売上高 130百万円

タカラバイオ(株)による国内市場独占販売期間



BSEは、ほぼ独占
状態にて、安定的
な売上を計上

遺伝子組換えカイコ事業 売上高推移

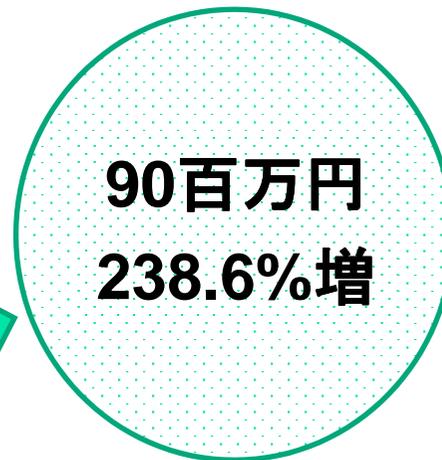
医薬品体外診断用
医薬品、動物医薬品の
製品開発に向けた

受託製造

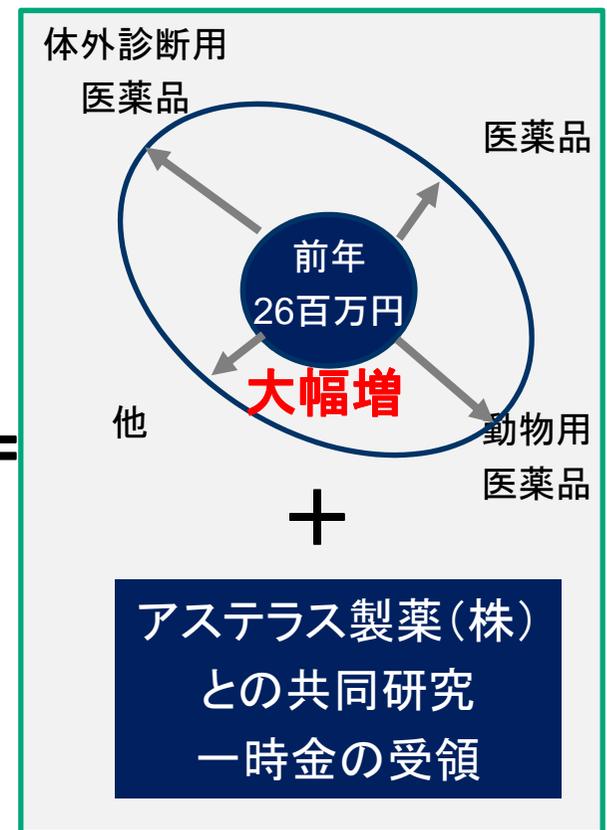


26年3月期

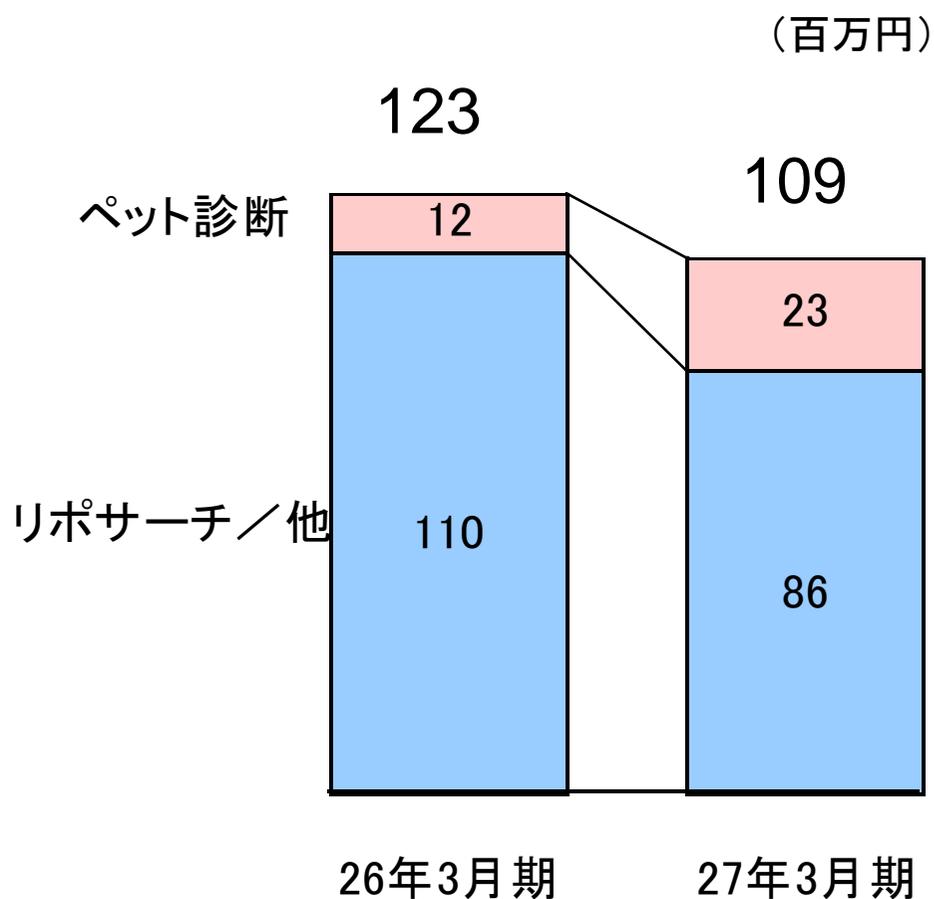
大幅UP



27年3月期



検査事業 売上高推移



(ペット診断)

◎ペットブームにより
受注拡大

(リポサーチ／他)

◎糖脂質検査の需要
は伸長

◎大型案件中止

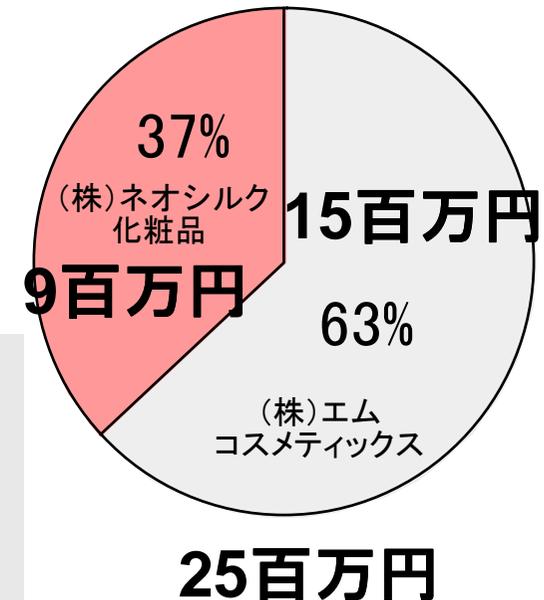
化粧品関連事業 売上高推移

（株）ネオシルク化粧品（通信販売）

- ◎平成26年7月より販売開始
- ◎定期購入者400名超

（株）エムコスメティックス（量販店販売）

- ◎量販店への売上ほぼゼロ
- ◎ショップチャンネルにて販売開始
- ◎連結範囲から除外※



※平成27年3月31日付にて、（株）エムコスメティックス社の全株式譲渡により連結範囲から除外されました。

【理由】 財政状態および経営悪化および旧経営者との方針の不一致

⇒平成27年3月期第3四半期に、子会社株式評価損47百万円（個別決算）およびのれん償却6.5百万円（連結決算）を計上→当グループの財政状態の弱体化のリスク増加の危険

⇒当社グループ内部管理体制の整備に支障をきたす恐れ増加

セグメント別売上高（前年比）

（千円）	平成27年 3月期 （第33期）	平成26年 3月期 （第32期）	前年差
診断・試薬事業	↓ 504,917	520,415	■前年比 3.0%減 研究用関連 △10.6% 診断用関連 +36.6%
遺伝子組換え カイク事業	↑ 90,519	26,734	■前年比 238.6%増 受託製造 大幅増 アステラス共同研究 一時金増
検査事業	↓ 109,977	123,526	■前年比 11.0%減 ペット診断の需要拡大 大型案件の失注
化粧品関連事業	↑ 25,213	753	■「フレヴァン」H26.7ネット販売開始 ■「MC25N」ショップチャンネル販売開始
子会社間の相殺額	△1,597	△1,000	-
全社業績（連結）	↑ 729,030	670,428	■前年比109%

セグメント別 営業損益（内訳）

（千円）	平成27年 3月期 （第33期）	平成26年 3月期 （第32期）	主な要因
診断・試薬事業	▲△26,594	△51,234	■減収損失改善（収益性改善） 利益率が低い製品の販売中止 販売価格の見直し（国内・海外）
遺伝子組換え カイコ事業	▲△44,881	△63,177	■増収損失改善（研究開発費増） 研究開発の強化 人件費増・積極的先行投資
検査事業	▼△38,807	17,914	■減収減益 売上高の減少 先行投資の負担増（設備 & 人材）
化粧品関連事業	▼△74,923	△13,818	■増収損失悪化 エムコスメティックス運営コスト負担増 フレヴァンPRの先行投資（広告宣伝）
子会社間の相殺額	3,690	2,430	-
全社業績（連結）	▼△181,517	△107,885	■子会社のコスト負担増

全社業績（連結）

（千円）	平成27年 3月期 （第33期）	前年比
売上高	729,030	+8.7%
営業利益（△損失）	△181,517	△73百万円
経常利益（△損失）	△139,084	△39百万円
当期純利益（△損失）	△158,480	△43百万円

増収損失悪化⇒連結子会社のコスト負担増

（株）スカイライト・バイオテック⇒大型案件の中止＋先行投資コスト負担増

（株）エムコスメティックス⇒経営状況の悪化（売上＜固定費＋不良在庫）

⇒株式譲渡による清算コスト増

（株）ネオシルク化粧品⇒販売初年度による広告宣伝の先行投資負担増


 キャッシュフロー（連結）

（千円）	H27年3月期 （第33期）	主な要因
営業CF	△108,999	<ul style="list-style-type: none"> ■税金等調整前当期純損失△161,078千円計上 ■売上債権の増加 ■仕入債務の減少
投資CF	21,835	<ul style="list-style-type: none"> ■投資有価証券／有形固定資産取得による支出 ■投資活動により21,835千円資金調達 <ul style="list-style-type: none"> - 投資有価証券の償還による収入 - 子会社株式の売却による収入
財務CF	163,736	<ul style="list-style-type: none"> ■新規の借り入れにより獲得した資金
現金及び現金同等物の期末残高	1,232,210	

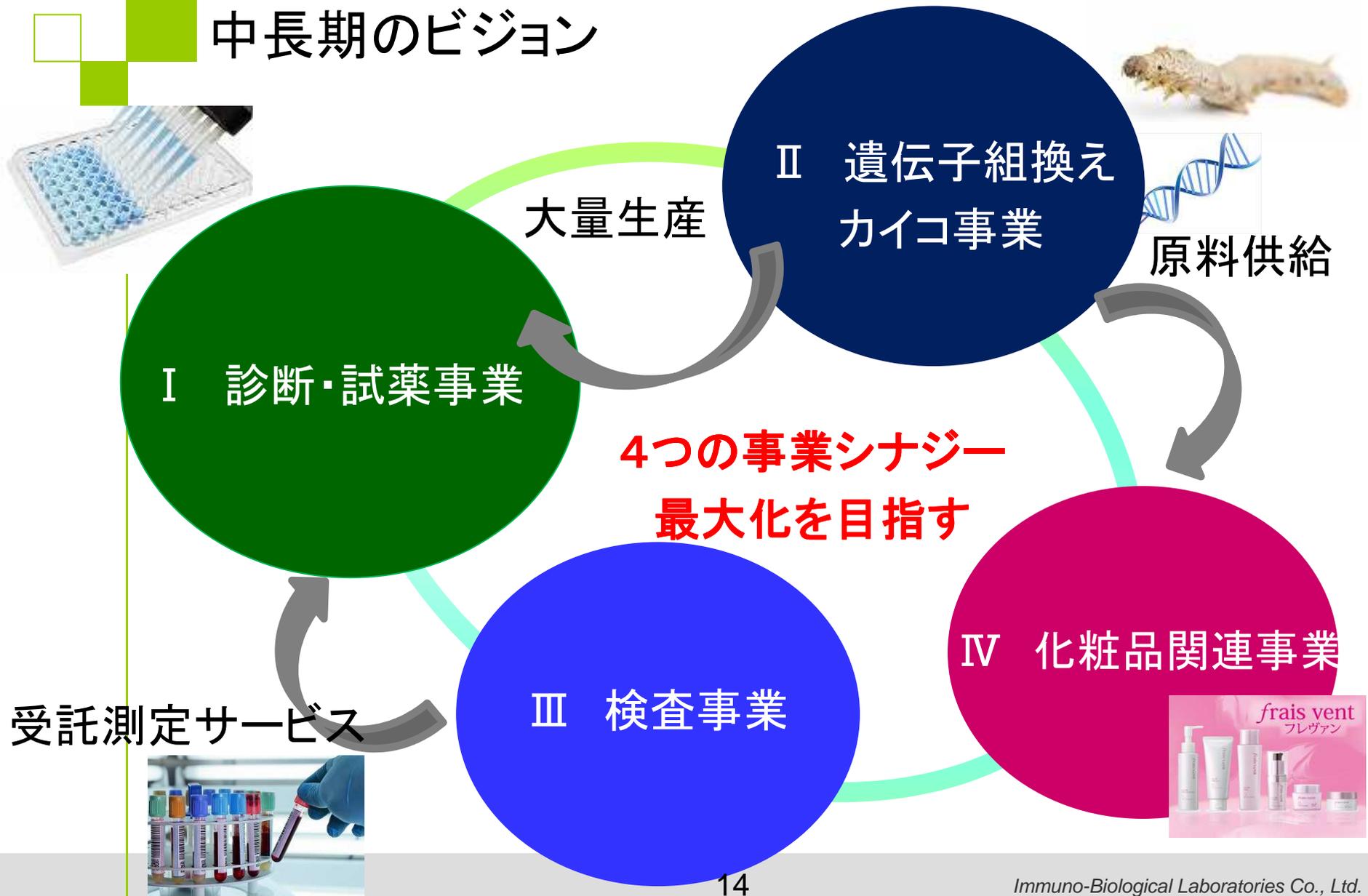
貸借対照表（連結）

（百万円）	H27年3月期 （第33期）	総括（百万円）
流動資産	1,826	[流動資産] 主な内訳 現金及び預金 1,284 / 受取手形及び売掛金 248
固定資産	1,311	
資産合計	3,138	[固定資産] 主な内訳 有形固定資産 935 / 無形固定資産 191 投資その他 184(投資有価証券 121)
流動負債	233	[流動負債] 主な内訳 1年以内返済予定長期借入金 102
固定負債	284	
負債合計	518	[固定負債] 主な内訳 長期借入金 283
純資産合計	2,619	
負債純資産合計	3,138	

■ 平成27年3月期（第33期）決算報告（連結）

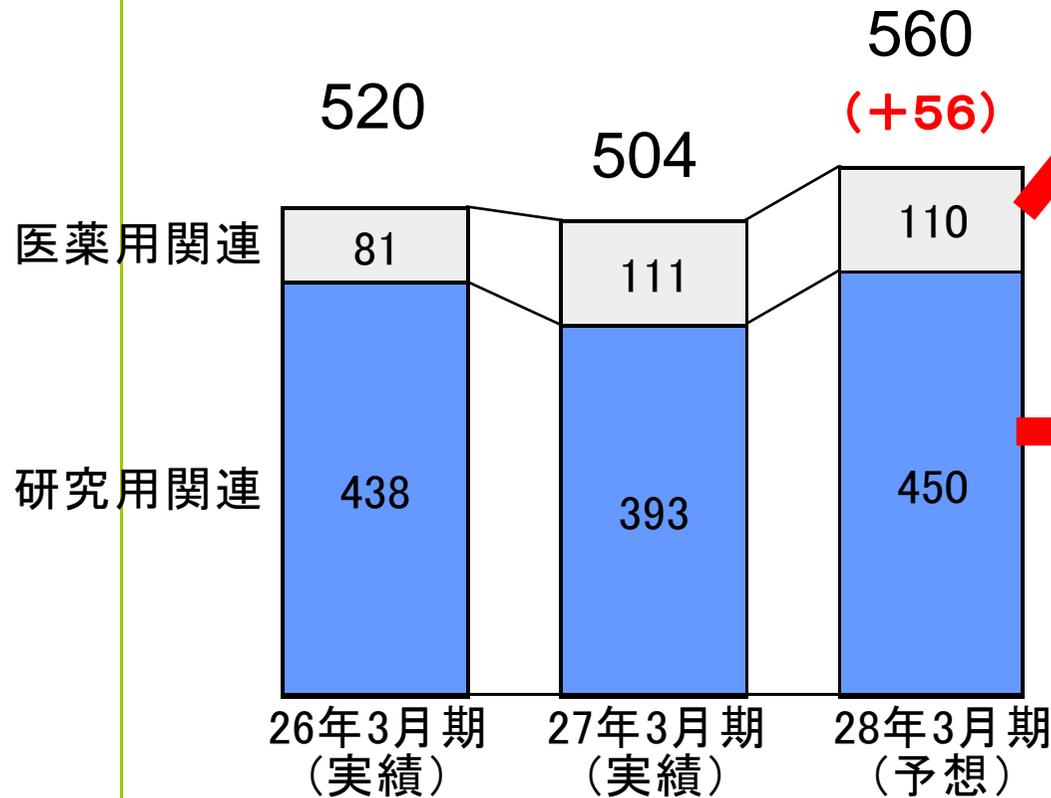
■ 平成28年3月期（第34期）
業績予想および
（新）中期経営計画【連結】

中長期のビジョン



診断・試薬事業（来期予想）

（百万円）



◎BSE安定売上

◎新規発売開始

⇒LPL(リポ蛋白リパーゼ)のラテックス自動化診断薬

◎収益性の向上

⇒国内外15%以上の向上を目指す

◎海外販売の強化

⇒積極的な情報提供により新規顧客獲得

⇒アミロイドβ販売開始(H28.1月～)

平成28年3月期（第34期）業績予想および （新）中期経営計画【連結】

診断・試薬事業（新中期経営計画）

（百万円）

（研究用関連）	売上高
25年3月期実績	566
26年3月期実績	438
27年3月期実績	393
28年3月期予想	450
29年3月期計画	520
30年3月期計画	570

25年3月期並みの
売上高を目指す

（医薬用関連）	売上高
27年3月期実績	111
28年3月期予想	110
29年3月期計画	120
30年3月期計画	150

体外診断用医薬品の
早期製品化を目指す

診断・試薬事業（売上高の回復）



Face to Face営業 + HPから情報発信

■ 国内市場の業績改善／代理店との連携強化

⇒ 再契約した既存代理店との**信頼関係の構築**

○有益情報の提供 ○利益率の改善

⇒ 学会展示／**研究現場の最新情報の収集**

○ 病理学会 - 4月 ○ 糖尿病学会 - 5月

○ 認知症学会 - 10月

診断・試薬事業（売上高の回復）



Face to Face営業 + **HPから情報発信**

- ネット環境を活用したセールス&マーケティング活動強化
⇒ 営業／マーケティングツールとしてのHPを全面改定



世界の研究者に向け
営業ツールとして
最大限の活用

診断・試薬事業（早期製品化を目指す）



今期製品化（予定）

LPL（リポ蛋白リパーゼ）のラテックス自動化診断薬

LPLの診断薬は、既に脂質異常症の高TG血症患者を対象として他社から販売されておりますが、当社が販売を開始する製品は、ラテックス凝集法による自動分析装置での測定用になります。



- ⇒少数の検体から多数の検体まで幅広く対応！
- ⇒測定操作も簡便！
- ⇒検査センターや病院の検査部門などでも広く測定することが可能！

診断・試薬事業（早期製品化を目指す）



来期以降製品化（予定）

難聴・めまい	難聴・めまいの原因を生化学的に診断できる世界初のバイオマーカー（CTP）の製品化
白血病	新規治療薬シーズとして研究開発（ヒトT細胞白血病の発症原因ウイルスであるHTLV-1）・製品化
新規治療薬のスクリーニング	ATL新規治療薬のスクリーニング、薬効評価及び関連タンパク質に対する抗体や測定系の開発・製品化
筋ジストロフィー症	筋ジストロフィー症のマーカー分子に対する測定系の開発・製品化
アルツハイマー病	神経細胞に毒性を有するとされているアミロイドβの毒性コンフォマーに対する抗体を創出し製品化

遺伝子組換えカイコ事業（来期予想）



製品開発が順調に進行し、
239%達成

さらに、製品化に向け

受託製造大幅増

医薬品、医薬品体外診断用、動物医薬品の製品開発に向けた

受託製造

26百万円

26年3月期
（実績）

90百万円

27年3月期
（実績）

110百万円

28年3月期
（予想）

平成28年3月期（第34期）業績予想および （新）中期経営計画【連結】

遺伝子組換えカイコ事業（新中期経営計画）

(百万円)

	26年3月期 実績	27年3月期 実績	28年3月期 予想	29年3月期 計画	30年3月期 計画
遺伝子組換え カイコ事業	26	90	110	280	360

遺伝子組換えカイコ生産抗体の優位性が明らかとなり、**体外診断用医薬品**および**動物用医薬品**の新製品開発のための原料を供給。

順調に製品化が進行し
飛躍的な売上増加
を目指す。

遺伝子組換えカイコ事業により開発した数種類の
有用なタンパク質の収益化
に向け医薬品関連企業等との連携先を模索。

平成28年3月期（第34期）業績予想および （新）中期経営計画【連結】

遺伝子組換えカイコ事業（重要課題と戦略）

■ 安定的な大量生産のための体制づくり

<ul style="list-style-type: none"> ■パイロットプラント建設のための賃貸借契約締結 	<ul style="list-style-type: none"> ■パイロットプラント(前橋市)の建設開始 ■パイロットプラント稼動 	<ul style="list-style-type: none"> ■GMP準拠の生産体制の構築 ■本格生産プラント建設
【終了】	H27年6月～H28年6月	H28年6月～

■ ヒト型フィブリノゲン⇒アステラス製薬(株)との共同研究開発

平成25年12月24日締結	平成27年3月31日締結	医薬品用途での契約締結を目指す
<ul style="list-style-type: none"> ■性状に関する基礎検討 ■医薬品に向けた製造方法の検討等 	<ul style="list-style-type: none"> ■大量生産に向けた製造方法の検討等 ■パイロットプラントによる試験生産 	<ul style="list-style-type: none"> ■GMP準拠によるTGカイコ由来のヒト型フィブリノゲンを安定的に大量生産を実施
【終了】	平成27年3月～3年間	平成32年に上市(目標)

遺伝子組換えカイコ事業（重要課題と戦略）

感染症ワクチンの共同研究

インフルエンザウイルス
H1N1亜型の生産
に成功し、**H5N1亜型**
ワクチンの開発中

中和抗体
の共同研究

インフルエンザ
ワクチン
の共同研究

動物用ワクチン
の共同研究

（有）生物資源研究所との共同研究開発

検査事業（来期予想）



診断・試薬事業とのシナジー効果で

新規顧客の獲得

ペットのコレステロールと中性脂肪
の測定サービスの

需要拡大

150百万円

28年3月期

（予想）

123百万円

26年3月期

（実績）

大型案件の失注
により売上減

109百万円

27年3月期

（実績）

平成28年3月期（第34期）業績予想および （新）中期経営計画【連結】

検査事業（新中期経営計画）

（百万円）

	26年3月期 実績	27年3月期 実績	28年3月期 予想	29年3月期 計画	30年3月期 計画
検査事業	123	109	150	180	220

診断・試薬事業とのシナジー効果で**新規顧客の獲得**

ペットのコレステロールと中性脂肪の測定サービスの**需要拡大**

新規サービスの拡大

新たに導入した**ガスクロマト
グラフィー（GC）**を用いて、
これらの顧客群に対してLipid（＝脂質）
というキーワードに関連した新たな付加
価値を提案し、売上の拡大を図ってま
いります。

検査事業（既存顧客への新たな付加価値提供）

新サービス

- ▶ **コレステロール・バランス・テスト（予定／ガスクロマトグラフィー分析）**
血中のコレステロールを「食物を通じて吸収されたもの」と「肝臓で合成されたもの」に分類し、その比率の変化をみることで各種薬剤・食品素材の機能（吸収阻害／合成阻害）が評価できる。
- ▶ **脂肪酸分析（予定／ガスクロマトグラフィーによる分析）**
特殊な分析ではないが、かねてより顧客の測定ニーズの強い項目
- ▶ **コレステロール・エフラックス・テスト（米国企業との提携）**
シアトルのパシフィック・バイオマーカー社と提携し、極めて重要なHDLの機能（コレステロールを引き抜く能力）を評価する検査

検査事業（新規顧客の獲得／売上の回復）

診断・試薬事業とのシナジー効果を狙う
メタボリックシンドローム関連試薬と共に共同PR

- 学会共同展示（新規顧客の獲得）
- 共同での営業活動（既存顧客シェア）



脂質代謝	糖代謝	特殊研究検査	中皮腫
ApoB100 (売れ筋) LPL HTGL EL	GLP-1 (売れ筋) GIP (売れ筋)	α-Klotho (売れ筋) Fiblin-5/DANCE FGF19 FGF21 Mac-2bp Leptin	N-ERC
メタボ人口 約1,940万人(予備軍含む) (40歳~79歳) 男性 2人に1人 / 女性 5人に1人 厚生労働省調べ			

検査事業



ペット診断市場におけるシェアの拡大

⇒ペットのコレステロールと中性脂肪の測定サービスのPR強化

○国内ペット関連総市場規模：約1.4兆円（2014年）

○ペット保険や動物病院などサービス産業好調に推移

○ペットに対する健康維持・管理の意識の高まり

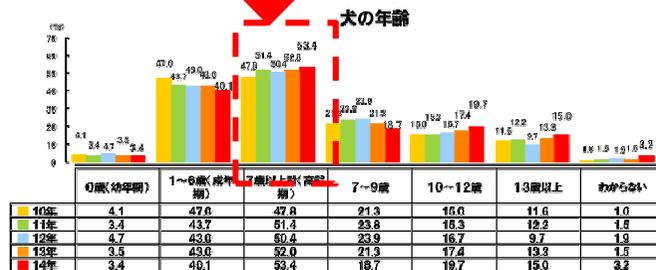
○高齢ペット（犬・猫）の増加

拡大市場

情報元：矢野経済研究所ペットビジネスに関する調査結果 2014

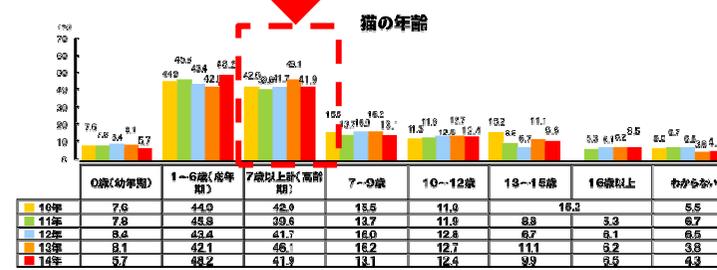
犬 7歳以上（高齢）

・2012年～2014年を見ると、「7歳以上計」の割合が微減傾向にある。
一方、「7歳以上計」の割合は、12年より微増傾向にある。



猫 7歳以上（高齢）

・2012年～2014年を見ると、「7歳以上計」の割合が微減傾向にある。

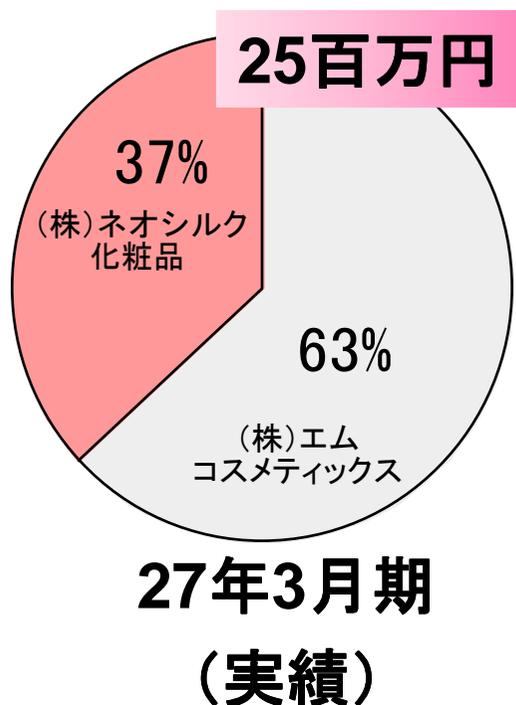


情報元：一般社団法人ペットフード協会 平成26年 全国犬猫飼育実態調査 より抜粋

化粧品関連事業（来期予想）



**継続愛用者の増加
効果的な宣伝広告活動を実施**



平成28年3月期（第34期）業績予想および （新）中期経営計画【連結】

化粧品関連事業（新中期経営計画）

（百万円）

	26年3月期 実績	27年3月期 実績	28年3月期 予想	29年3月期 計画	30年3月期 計画
化粧品事業	0	25	80	150	220

「フレヴァン」シリーズの **ラインナップを充実**

効率的な広告宣伝活動を実施し、**継続愛用者の拡大**

注目度
アップ！

**ネオシルク®ヒトコラ
ーゲンの拡販**

大手化粧品原料取扱企業との連携を
模索し、「ネオシルク・ヒトコラーゲン」の
コストの低減を図り、**販路
を拡大**し、多くの化粧品メーカー
への導入を進めてまいります。

化粧品関連事業（重要課題と戦略）

- （株）ネオシルク化粧品「フレヴァン」の売上／利益の増加
- ネオシルク® - ヒト・コラーゲンの認知度UP



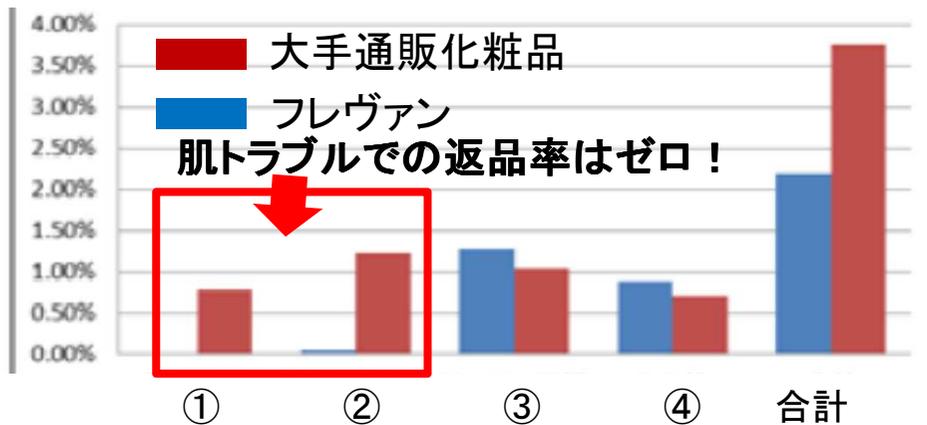
化粧品関連事業（フレヴァンアンケート結果）

◎ 99.9% 驚異の納得率！ 肌トラブルの返品率ゼロ！

◎ 驚異のリピート率！ なんと60%以上！

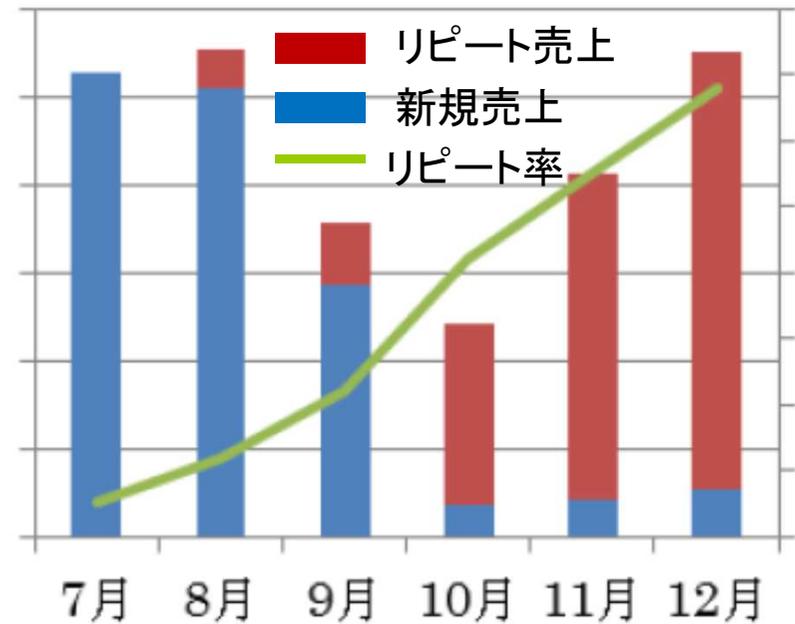
フレヴァン vs 大手通販化粧品

返品比較



① 肌トラブル ② 肌に合わない ③ サービス不満 ④ その他

新規・継続ユーザーの推移

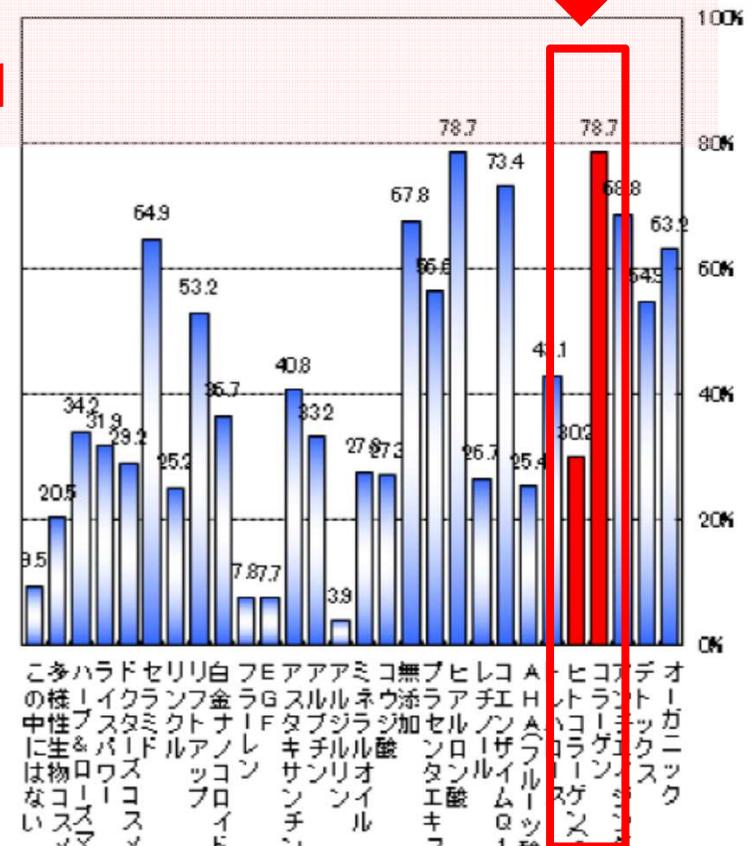
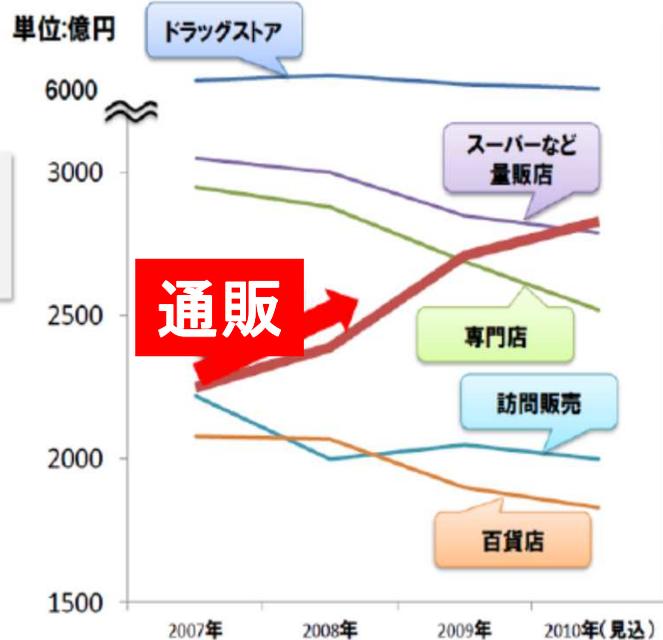


化粧品関連事業（化粧品の動向）

- ◎ 市場規模：2.1兆円（通販：3,500億円）
- ◎ 通販事業は右肩上がり
- ◎ コラーゲン人気はダントツNo1

コラーゲン
 使いたい化粧品原料
 ダントツNo.1 79%

小売ベース
 全体2兆1417億円
 2010年見込み
 （富士経済調べ）



新中期経営計画（連結）

(百万円)	H27.3期 (実績)	H28.3期 予想	H29.3期 計画	H30.3期 計画
売上高	729	900	1,250	1,520
診断・試薬事業	504	560	640	720
遺伝子組換えカイコ事業	90	110	280	360
検査事業	109	150	180	220
化粧品関連事業	25	80	150	220
営業利益(△損失)	△181	△35	100	180
経常利益(△損失)	△139	△50	平成27年6月1日 投資有価証券売却益 +69	
当期純利益(△損失)	△158	20		



本発表において提供される資料ならびに情報は、当社経営陣が現時点において入手可能な情報によって判断したものであり、不確実である情報から得られた多くの仮定や考えによって作成されております。実際の成果は、さまざまな要素によって変化するため、業績見通し、開発見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知置きください。

実際の業績に影響を与える要素には、国内および国際的な経済情勢、業界ならびに市場の状況、金利および通貨為替の変動、新製品上市の遅延、導出先企業における開発の進捗の遅れ、技術的進歩、競合他社による特許の獲得、国内外の政府による法規制の変更などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。